

調査結果を明日の授業へ！

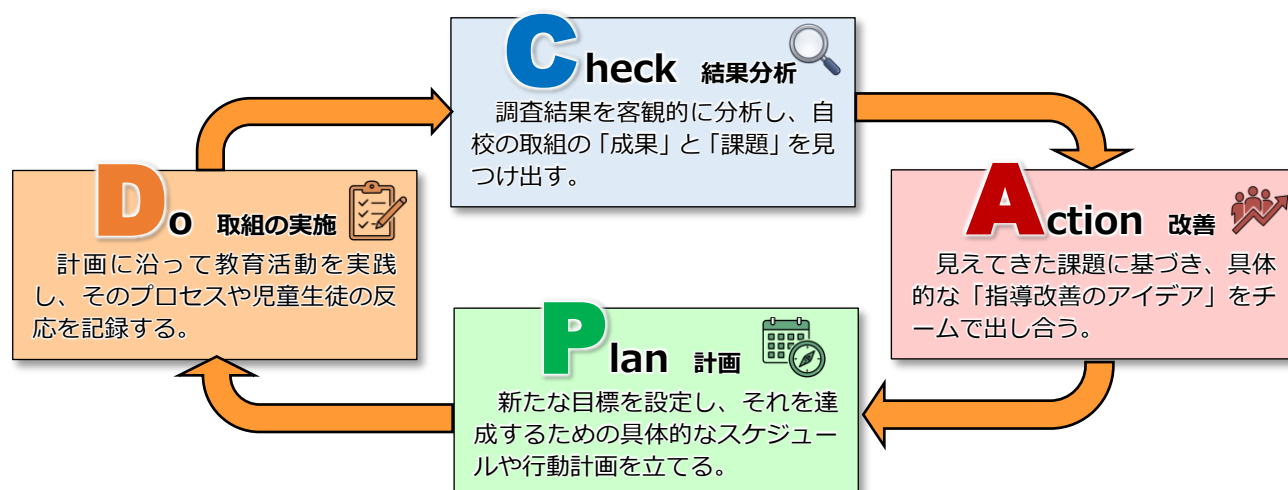
～各校の検証・改善サイクルの構築に向けて～

■ 1 「明日の授業づくり」をサポートするパンフレットに

全国学力・学習状況調査の結果を日々の授業づくりにしっかり生かせるよう、大切なポイントをまとめたパンフレットを作成し、すべての先生方にお配りします。データから見てきた「授業づくりのヒント」を共有することで、先生方がご自身の授業を振り返り、「明日の授業をこう工夫してみよう」と前向きに取り組むきっかけにしてもらうことを目的としています。

■ 2 調査結果を生かす「検証・改善サイクル」とは

全国学力・学習状況調査は、単なる結果発表ではなく、各校の取組の成果を測る1つの大きな「チェックポイント」です。以下のサイクルを意識することで、学校全体の指導力向上につながります。



検証・改善サイクルは、1年間かけてゆっくり1周させるだけではありません。学期ごと、あるいは単元ごとなど、年間を通して複数回の小さな見直しのサイクルを設けることで、より柔軟で効果的な授業改善につながります。目の前の児童生徒に合わせた最適なサイクルを、ぜひ各校で工夫してみてください。

■ 3 「学校ドック」で自校の強みと課題を見つけましょう

検証・改善サイクルを意識したとき、全国学力・学習状況調査は、学校にとっての「定期健診（学校ドック）」と言えるでしょう。「うちの児童生徒はここが育っているな」「この単元は少しつまずきやすいかもしれない」といった、普段の指導で気になっていることの根拠を探るために、ぜひ前向きにご活用ください。その際、国から届く「各学校の結果データ」に加えて、香川県教育センターが作成した「活用ツール」を併せてお使いいただくのが効果的です。全国、香川県、自校の状況を比較することで、自校の強みや改善点がより明確になります。

■ 4 「活用ツール」で自校のデータを check !

香川県教育センターが提供している活用ツール(Excelファイル)を使えば、全国と香川県の状況に加え、**自校の状況をグラフや表に表示、経年比較したり、作成されたグラフ等ファイル内の表を貼り付けて活用したり**することができます。

① 活用ツールのダウンロード

香川県教育センターWebサイトから活用ツール（Excelファイル）と使用説明（PDFファイル）をダウンロードします。（認証領域にログインが必要です。）

② 自校のデータの用意

文部科学省指定のWebシステムからダウンロードした調査結果の電子データをコンピュータのデスクトップに展開します。（別途文部科学省から送付されているはがきのパスワードが必要です。）

③ 活用ツールの起動

必要なファイル名を選び、ボタンを押すと、データを読み込むことができます。

提供されたデータから表やグラフを作成

4. 活用ツールの操作
(1) 各シートへのリンク

① 目次（項目をクリックしてください）

メニューシート

クリックすれば目的のシートを表示できます。

目的に応じたシートを選択し、データを可視化しましょう。

自校の取組に照らして結果を分析

問題別調査結果
調査結果から課題を把握
国語の「読むこと」に課題がありそうだね。
どのような「つまずき」があったのだろう？

質問調査結果
【小学校】児童質問紙回答結果グラフ
取組の成果を確認
「学校が楽しい」と実感している割合が増えているね。
どのような取組が成果につながったのだろう？

※ 児童生徒質問調査については、質問項目ごとに、回答状況を示す帯グラフ、経年変化を示す折れ線グラフが表示されます。

活用ツールで可視化されたデータを用いて、校内研修の場が充実することを願っています。ぜひ、ご活用ください。

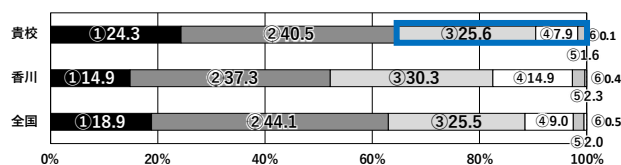


■5 カリキュラム・マネジメントの充実へ

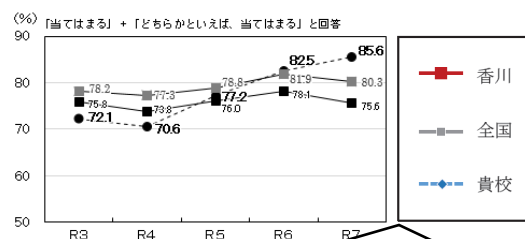
分析を行う際は、次のような観点から学校や児童生徒の状況を見つめ直し、組織的かつ計画的な教育活動の質の向上（カリキュラム・マネジメントの充実）につなげていくことが大切です。

○ 視覚的に捉える

調査結果データを目的に応じたグラフ（帯グラフや折れ線グラフ等）を用いて可視化し、児童生徒の意識の変容や実態を捉えましょう。



帯グラフで表すことで、本年度の児童生徒の回答状況を、より詳しく捉えることができます。特に、否定的な回答をした児童生徒に着目し、その理由を分析・考察することが改善につながります。



折れ線グラフで表すことで、経年で児童生徒の変容を捉えることができます。対象となる児童生徒は違いますが、学校全体で取り組んでいることの傾向を捉えることができます。

○ 関連性を探る

可視化したデータを用いて、各学校の取組（現職教育のテーマ等）と、児童生徒の意識の変化や教科に関する調査結果との関連について協議し、成果や課題を分析しましょう。

（例）

現職教育テーマの「主体的に学ぶ子どもの育成」に、関連する質問項目はどれだろうか？

どのような取組が成果につながったのだろうか？



児童生徒質問調査だけでなく、学校質問調査の項目も分析してみよう。

教科の調査では、どの調査問題が「読解力の育成」に関わっているのだろうか？

○ サイクルを回す

育成したい力を具体化し、改善策を考えましょう。そして、自校の年間計画等と照らして検証・改善サイクルを構築しましょう。



調査結果の活用や調査結果を基にした取組等、各学校で困っていることがありましたら、香川県教育センターの「研究相談」や「研修サポート」をご利用ください。